

知事記者会見の概要

日 時：令和7年5月28日（水） 10:07～10:59

場 所：502会議室

出席記者：11名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から5件の発表があった。

その後、代表・フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 第1回「やまがた未来共創会議」の開催について
- (2) 第1回「『県民まんなか』みらい共創カフェ」の開催について
- (3) 「すごい！健康長寿力アワード2024」の受賞について
- (4) さくらんぼメモリアルフェスタの開催について
- (5) 米国ハワイ州でのトップセールスの実施結果について

代表質問

- (1) 農林水産大臣の交代に対する所感について

フリー質問

- (1) さくらんぼの生育状況について
- (2) 発表事項1・2に関連して
- (3) 米価の状況について
- (4) 第27回参議院議員通常選挙について

<幹事社：読売・日経・YTS>

☆発表事項

知事

おはようございます。

早速ですけども、「やまがた紅王」の実が、だいぶ大きくなりました。(補足：ここで知事が「やまがた紅王」の生育状況を写した写真フリップを掲げる。) 順調に生育していると聞いております。だいたい100円硬貨の大きさに近づいたというところと聞いています。

なお、5月23日に実施した「さくらんぼ作柄調査」、この結果につきましては、本日の午後「さくらんぼ作柄調査委員会」から公表の予定でございます。

では私から、5点を発表をさせていただきます。

一つ目が「やまがた未来共創会議」の開催について、そして2点目が、第1回『『県民まんなか』みらい共創カフェ』の開催について申し上げます。

本県人口は、1990年代以降、30年以上減少を続けてきておりまして、100万人を下回ることが確実な状況にあると言えます。また、65歳以上の老年人口の割合が高い本県の人口構造を踏まえますと、今後しばらくの間は、人口減少は続くものと見込まれます。

100万人を下回るとは、県民の皆様にとって大きな衝撃を受けられると思います。ですが、こういうときだからこそ、決して後ろ向きにはならず、「ウェルビーイングの実現」と「明るい山形県の未来」に向けて、県民の皆様、各界各層の皆様や市町村とともに、積極的に取り組んでいくことが重要であると考えております。

こうした観点から、お手元に配布の資料の通り、今年度新たに「やまがた未来共創会議」と『『県民まんなか』みらい共創カフェ』を開催いたします。

はじめに、「やまがた未来共創会議」につきましては、産業・教育・金融・労働・言論・行政などの各界の皆様が一堂に会して協議を行うものであります。6月3日に第1回会議を開催予定でございます。

明るい山形県の未来を共に創っていくという趣旨から、会議名称を「やまがた未来共創会議」としたところであります。

この会議では、人口減少の状況や見通しなどについて共有をするとともに、各界の皆様から、人口減少に関する取り組みとして、工夫していることや新たなチャレンジについて、ご発信をいただく予定でございます。

継続的に会議を開催して、先進的な取り組みなども共有しながら、人口減少のスピードの緩和と人口減少への対応に向けた具体的なアクションが、さまざまな分野で加速するよう取り組んでまいりたいと考えております。

続きまして、『『県民まんなか』みらい共創カフェ』についてですが、県民の皆様と私が直接対話を行うものです。参加した県民の皆様から、それぞれが望む「明るい山形県の未来」やその希望を実現するためのアクションについてお聞きをし、語り合う予定であります。

第1回目は、6月6日（金）開催の「さくらんぼメモリアルフェスタ」に併せ、県内大学生の

皆さんと意見交換をしたいと思います。

今後も順次このカフェを開催し、若者・女性をはじめ、子どもから高齢者の方まで、各年齢層の方々との対話を重ねてまいりたいと考えております。

「やまがた未来共創会議」と『県民まんなか』みらい共創カフェ」の開催を通して、各界・各市町村の皆様、県民の皆様とともに、未来に明るい展望を抱くことができる山形県を目指して、取り組んでまいりたいと考えております。

3点目になります。「すごい！健康長寿力 アワード2024」の受賞について申し上げます。

株式会社主婦の友社発行の雑誌『健康』というのがありまして、その創刊50周年を記念して創設された「すごい！健康長寿力 アワード2024」に、このたび第1回の受賞自治体として、本県が選出されましたので、お知らせであります。（補足：ここで担当者が「すごい！健康長寿力 アワード2024」の賞状掲げる。）

この賞は、地域や企業、個人が取り組む「健康寿命延伸」の先進事例を表彰・発信することを目的に創設されたものであります。初めてとなる今回は、自治体部門として、山形県のほか、4つの道県が選出され、去る5月13日に授賞式が行われました。

今回、健康長寿に係る山形県の取り組みが評価されたことは、大変喜ばしく感じているところであります。ご協力いただいた団体や企業、自治体の皆様、イベントにご参加いただいた県民の方々には、あらためて感謝いたしますとともに、引き続き健康長寿日本一を推進するための施策を進めてまいりたいと考えております。

山形県が選出されたポイントっていうのをちょっと（担当から）聞いてもらいました。そしたら3点ほどありまして、一つには、ウォーキングアプリを活用した運動促進や、「（健康長寿日本一）ウォーキングWeb大会」など、イベントを開催している点。

2点目は、「減塩・ベジアッププロジェクト」を通して、多くの団体や企業とともに、県民の食事改善に取り組んでいる点。減塩弁当などに取り組んでいましたので、その点ですね。

3つ目が、健康診断の「健診」、それから、がん検診の「検診」、こういった受診率を高くキープ、かつ上昇させている点が評価されたというふうに聞いております。

4点目ですけれども、「さくらんぼメモリアルフェスタ」の開催について申し上げます。

お手元にチラシを配布しておりますが、やまがたフルーツ150周年記念「さくらんぼメモリアルフェスタ」を「山形さくらんぼの日」の6月6日と7日に、文翔館で開催いたします。

6月6日に、議場ホールで記念式典を行うほか、フェスタ期間中は、県産フルーツを使ったスイーツやドリンクなどの販売、高校生による吹奏楽やダンス、子どもたちに大人気の流しさくらんぼなどを実施いたします。

多くの方にご来場をいただき、やまがたフルーツ150周年を楽しんでいただければと思っております。

最後、5点目ですけども、米国ハワイ州でのトップセールスの実施結果について申し上げます。

先週21日から25日までの5日間の日程で、米国ハワイ州を訪問し、トップセールスを行ってまいりました。今回の訪問では、在ホノルル日本国総領事公邸において、現地輸入バイヤーやレストラン関係者、現地旅行会社等約100名をお招きして、「つや姫 海をわたる」10周年記念レセプションを開催いたしました。「つや姫」や総称山形牛など、県産農産物等のおいしさや本県の自然や文化の豊かさをPRしてまいりました。

「つや姫」を使用している現地レストランやおにぎり店を訪問した際には、「つや姫」は非常に好評であり、ハワイ州の方々の人気が高いというお話を伺い、大変喜ばしく思ったところです。

また、ホノルル市内の短期大学を訪問して、調理学科の学生の皆さんへ「つや姫」や県産酒などを紹介してまいりました。食を起点とする本県と短大との相互交流の促進を働きかけ、短大から本県への訪問について前向きな発言をいただいたところであります。「学生さんと一緒にいきますよ」というふうにおっしゃっていました。

さらに、有名レストランである「ロイズ レストラン」というのがあるんですけど、そのオーナーシェフ ロイ・ヤマグチ氏や現地輸入バイヤー、ハワイ州で活躍中の皆様6名に「やまがた特命観光・つや姫大使」を委嘱してまいりました。今後、本県の魅力発信に強力なお力添えをいただけるものと考えております。

加えて、現地の旅行会社を訪問し、本県へのインバウンド誘客促進の働きかけを行いました。商品造成に意欲的な発言をいただき、現在、本県の食や山形ならではの体験など、魅力的なツアー造成に向けて調整を進めていると聞いております。

県としては、このたびのハワイ州の訪問を契機に、さらなる県産農産物等の輸出拡大やインバウンドの拡大など、本県とハワイ州との相互交流の促進に努めてまいりたいと考えております。

私からは以上です。

☆代表質問

記者

読売新聞の仲條です。よろしくお願いいたします。

すいません、質問の前に先ほどの（健康）長寿力アワードの、あちら（賞状）なんですけど。（知事による賞状の掲示を）やっていただけないですか。

知事

分かりました。これで良いですか。（補足：ここで知事が自ら「すごい！健康長寿力 アワード2024」の賞状を掲げる。）

記者

はい、すいません。お手数をおかけいたしましてありがとうございました。

幹事社から代表質問をさせていただきます。農林水産大臣の交代に関する所感についてということで、すいません、少し時間が経ってしまいましたけれども。

先般ですね、コメの価格が、店頭の小売価格の高騰が続いている中で、「コメを買ったことがない」などと発言がありまして、その責任を取りまして、江藤（拓）前農林水産大臣が辞任されました。

山形県はですね、全国有数の米どころであります。山形県の知事として、江藤前大臣の発言を、知事はどのように受け止めましたでしょうか。所感をお尋ねします。

後任の大臣には、小泉進次郎新農林水産大臣が就任いたしました。今、コメの店頭価格の引き下げに向かってコメの随意契約をですね、今、進めていらっしゃるわけではありませんけれども、新大臣にはどのような姿勢で職務に当たってほしいとお考えでしょうか。また、どのような施策を進めてほしいとお考えでしょうか。2点、お願いいたします。

知事

はい。では、お答えいたします。

多くの国民が、米価が上がって生活に苦勞している、そういう中で、所管の大臣がああいった発言をされるということ、その発言をお聞きしまして、正直、啞然としてしまいました。既に発言を撤回し、辞任されておりますので、これ以上のコメントは申し上げないところであります。

新たに就任された小泉農林水産大臣は、政府備蓄米の放出にあたり「あまりにも高い今のコメの価格を抑制し、農家の皆さんが不安に思っている米離れを防ぎたい」とおっしゃっておいりましたので、生産者にも消費者にも寄り添うという姿勢で、農政に取り組んでいただきたいというふうに思います。

これからの施策につきましては、主食用米の確保のためには、政府が責任をもって安定的に供給できる体制を構築する必要があると考えております。このたび、随意契約による政府備蓄米の売り渡しについて示され、米価については5kg2,000円から3,000円で販売したいという発言もされております。

今回の米価高騰により、主食としての米の大切さということが、社会全体に認識されたものと思っております。消費者が買い求めやすい価格になることは、もちろん大事であります。ですが一方で、生産者にとっても再生産が可能な価格になるという必要がありますので、将来に向けて、主食用米を社会全体で維持、生産できる、そういった施策をしっかりと進めていきたいというふうに思っております。

小泉大臣には、目の前の米の対応はもちろんですが、生産者と消費者、両方の視点を持って、今後のビジョンについて、米についてですね、日本の主食であります米について、社会

全体で議論を進めて、生産者の皆様が希望を持って生き生きと農業に従事できるよう取り組んでいただきたいというふうに思っております。

記者

関連してですね、知事ご本人としても現在の店頭に並んでいる価格は、やはり高いなというふうにお感じなのか、それとも、これぐらい高くてもしょうがないのかなという思いなのか、そのあたり知事個人のご感想としてはいかがですか。

知事

はい、やはり昨年までと比べて、消費者の立場ですと、昨年の倍になっているというところでありまして、1か月ぐらい前でも、山形市内のスーパーで見た時はですね、4,000円を超えておりましたので、5kgで。こういう値段になっているというふうにちょっと驚きましたし、あと、昨日、田植えをした帰りに、村山市内のコンビニに立ち寄りまして、そこでもお米を見たんですけれども、つや姫の2kgの袋があったんですけども、あれが税抜きで1,900いくらかで、だから税込みだと2,000円ちょっと、2kgです。「うわっ」とちょっと驚きました。さまざまな価格が高騰している中で、主食用米、お米は毎日食べるものでありますし、ここはやはり、適正価格になってほしいなというふうにも思いました。

ただ私の知事という立場では、生産者の皆さんの思いといいますか、生産者の皆さんも高ければいいというふうに思っているわけではないと思います。米離れが進むと困るという不安の声も聞かれます。ですが、再生産できないというような価格であれば、米の生産そのものが持続できないので、そこはやはり、再生産できる適正価格といったものをしっかりと両方の視点を持って、行政並びに流通業界、社会全体でしっかりと議論をして、そして食料の、お米の確保、これは食料安全保障につながっていくわけでありますので、大変大きな問題だと思います。今こそ目の前の対応をしながら、今後に向けて、農政、農業の^{まつりごと}政、施策ですね、そういったことをこれまで以上に力を入れて、取り組んでいくべきだというふうに思います。

☆フリー質問

記者

NHKの岡野です。よろしくお願いいたします。

冒頭あったさくらんぼについてなんですけれども、作柄調査の結果は、午後、正式に発表されるんですが、現時点での今シーズンの生産量、去年ちょっと大きく落ち込みましたけど、生産量っていうのは、知事、どのように把握されてますでしょうか。

知事

そうですね、今、いろいろな方々からも聞こえてきます。そして、本当に具体的なところ

は午後からの発表ということになりますけれども、農林水産部からまず聞いたところでは、主力品種の「佐藤錦」の着果量は、平年よりも少ない。そして「紅秀峰」と「やまがた紅王」の着果は、概ね良好、現時点で良好と聞いております。

今年は、花が咲いたときの天候が悪かったですね。寒くて、しかも強風が吹いていたと記憶をしておりますが、そういったことで、蜂の活動が鈍かったと聞いております。ですから、平年より少ないというふうになるのではないかなというふうには思っております。

生産者の皆さんのご苦勞も、思いを致さなければならないところですが、消費者の皆さんも心待ちにしておりますので、本当に1粒でも多く市場に出していただけるように頑張っていると思います。

記者

ありがとうございます。先ほどおっしゃったのは着果量が「佐藤錦」が平年より少なめで、「(やまがた) 紅王」と「紅秀峰」が概ね良好ということで。

知事

そのように聞いております。

記者

あともう1点なんです、先日発表ありましたさくらんぼの「おうとう灰星病」、カビの一種が付着して腐る。2004年以来の注意報を県が出されているんですけれども、生産者に向けて、知事から注意を含めての呼びかけをお願いしたいと思います。

知事

その「灰星病」のことはちょっとまだ聞いておりませんので、後ほど担当から、と思っております。

記者

灰星病じゃなくても、これから皆さん作業も本格化されるので、そのあたり、事故であったりとかそういったことも含めて呼びかけを。

知事

そうですね。今、5月も下旬ということで、6月になるとさくらんぼの生産・出荷が本格化してくるシーズンであります。本県のフルーツを代表するスター選手のさくらんぼでありまして、「さくらんぼ県やまがた」として、全国に鳴り響いていることもあり、やはりさくらんぼに期待している消費者の皆さん、大変多いです。生産者の皆さんには、これからは毎日毎日、天候を気にしながらのご苦勞が多いというふうに思いますけれども、まず、お怪我をされな

い様に、そしてさくらんぼの病気も出ていると聞いてますけども、そういったことへの対応もですね、しっかりしていただきながら、1粒でも多く、消費者の皆さんにお届けできるようにしっかりと取り組んでいただきたいと思います。と思っています。

記者

山形新聞、稲村です。

「やまがた未来共創会議」と「『県民まんなか』みらい共創」カフェ、これの件でちょっと追加でお尋ねしたいと思うんですが、人口減少対策の取組みとなって、随時開催していくということですが、特に会議なんかだといろんな立場の人が、いろんな取組みとか提言を会議の場でされと思います。そういったものを令和8年度の県の施策の展開等々にも反映させていきたいようなお考えは知事としてはお持ちでしょうか。

知事

そうですね、もちろん各界各層の皆様からさまざまなアイデアでありましたり、いろんなことをお聞きしまして、まず皆さんと一緒にそういったことを共有することと、あと、県として、行政としてですね、県と市町村とでどういったことができるのか、また政府にもどういったことを提言できるのかといったことをしっかり考えていきたいというふうに思っております。ですから、県政に反映できるものは反映していきたいというふうにも思っております。

記者（朝日新聞：斎藤）

朝日新聞、斎藤です。よろしくお願いします。

人口減少対策について3点ほどお伺いしたいと思います。

あらためてにはなるんですけども、県としても1990年代以降どんどん人口が減っていった、先手先手で対策を取られてきたと思います。それにも関わらず、人口減少に歯止めがかけられていないというのが現状かと思います。知事としてはなぜ、人口減が食い止められないのか、これについてはどういうふうにお考えでしょうか。

知事

そうですね、一つには、自然減と社会減というのがありますので、自然減というのはその構造的なものが要因として大きいと思っております。1950年生まれの人が団塊世代と言っておりますけども、やっぱりその層が一番厚いということは、どんどん高齢化してきている、これからも高齢化していくということで自然減と社会減は、以前は7:3でありましたが、直近では8:2になっておりまして、この自然減が止められないというのがやはり、本県の構造的な、人口構造からして、止められないことの大きな要因だというふうに思っています。自然減の中で亡くなるということと産まれる、出生ということもありますけども、そこはです

ね、何て言うんですかね、出生、子育てしやすい環境をつくる、結婚したい人が結婚しやすい環境をつくるというようなことにも意を用いてきました。ですけれどもやはり、出生数は低下をしております。これも全国的にそうなので、これもやはりどうしたら止められるかというようなところまではですね、解決策というのはなかなか難しいなというふうに思っています。

あと、社会減のほうははっきりしておりまして、進学・就職で県外にまず出ざるを得ないというのがありますので、そこはですね、進学先の大学が首都圏に集中していたり、就職の場合の企業もですね、さまざまな業種の企業が大都市には多いというようなことで、そこもなかなか大変だになってというのが正直なところであります。やはり一つの県だけで、できるようなことは限られていると思って、知事会として、地方分散というようなことをですね、政府にも働きかけてきたわけなんですけれども、そこも一定程度しか進まないということがあります。

さまざまな要因が重なって、人口減少が加速しているのかなというふうには捉えております。ただ、できる限りですね、健康長寿というようなことにも意を用い、また、子育て応援というようなことにも力を入れ、また、移住・定住、そういったことにも意を用いてきましたし、これからもそれはしっかり人口減少抑制策としてやっていきたいというふうに思っています。

あと、人口減少の抑制だけではなくて、その対応策ということもしっかりやっていかなくてはいけないと思っておりますので、どういった山形県の未来をですね、作っていくのか、まず県民の皆さんお一人おひとりから、できる限り多くお聞きをしたいし、一緒になって作っていきましょうという、そういった機運を醸成していきたいというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。2点目ですけれども、人口が減るとさまざまなデメリットが生じるというふうに言われておりますが、知事としては人口が減って、山形県として最も困ることというのは何だというふうにお考えでしょうか。

知事

そうですね。従来取り組んできたことはですね、人口減少で経済が縮小してしまうというようなことを考え、そこは縮小をなるべくさせたくないという思いで海外輸出でありましたり、観光交流ということで、インバウンドにも力を入れてきたというのがあります。

ですが、足元でやはり一番困るということとはですね、コミュニティの存続ができなくなる集落がどんどん出てくるのではないかと。そこが私は一番心配しているところです。

記者

はい、ありがとうございます。最後ですけれども、今回の「やまがた未来共創会議」もそ

うだと思いますが、これまで人口減対策で、抑制も含めてある程度の効果が実際に出た施策、あるいはこれから効果が見込めるような施策としては、具体的にはどんな施策がありますでしょうか。

知事

人口減少対策ですか。そうですね。具体的に言いましたら、移住定住、その前に進学先をちょっと増やそうと思ひまして、私が就任してから米沢栄養大学を設置したり、また、東北農林専門職大学を設置したり、あと県立大学に大学院を設置したり、そういったことを取り組んできました。現在は、東北公益文化大学の公立化に取り組んでおります。そういった若い人がですね、進学できる、そういう進学先をできる限り増やすと。大きな数ではないんですけども、ただ地道にそれをやってきました。それから、移住促進策として、県と市町村とでタイアップをしましてね、「くらすべ山形」という愛称ですけども（補足：「一般社団法人ふるさと山形移住・定住推進センター」のこと。）、そういったところでも移住促進に取り組んできました。また、県と市町村と一緒に、奨学資金の貸与、返還しなければいけないのですけれども、その返還分を県と市町村とで、戻ってきたら免除と言いますか、差し上げるというような、そういった施策にも取り組んできて、それも効果が上がっていると聞いております。

本当にいろんなことをやってきたなと思います。ただこれは県内国内で取り合いというような側面もありまして、日本人が増えるということではない、たとえば一つの国として考えればね、そういう中でいろいろな施策だなと思っております。ここも競争していかなくてはいけないのですけれども、あと大きな視点では、先進国を見ますと、外国人材の活用であったり、移民であったり、そういった大きな視点でしっかり取り組むべきだというふうに思っているところです。それで今後ということになりますけれども、「多文化共生社会」そこはやはり、しっかりと取り組んでいきたいなと思っております。

記者

共同通信の中村です。

米の価格の話に戻りますが、スーパーで4,000円を超えているのとかを見ると、やっぱりちょっと高いなと思うのですが、一方でやはり生産者の視点というのもあるとあって、米どころの山形の知事としては、現時点ではどれくらいの価格になるのが適正だというふうに思われますか。

知事

そうですね。今この時点ですでね、これくらいの価格と言うのは、ちょっと申し上げられないところであります。適正な価格というのはね、どのくらいなのか、今、具体的には正直はつきり言えないし、分かっているけどもあまりこの立場では今、言えないのかなという気がし

ております。

いろんなものが動いています。生産者の皆さんのコストがかかるものも動いていますので、本当にスライド制に考えていかないと、今何円というようなことはちょっと申し上げられないかなというふうに思いますね。

あと、銘柄もございます。高級銘柄米もありますし、主力のはえぬきというものも業務用にも使われていると聞いておりますし、いろいろなお米がありますので、今一概には申し上げられないところです。

記者

分かりました。ありがとうございます。あとは、さくらんぼについてなんですが、ちょっと今年のさくらんぼへの期待感をお伺いしたくてですね。昨年の近年異例の不作というのを踏まえると、このアニバーサリー・イヤーを前に「今年こそは」という気合いなのか、何でしょう、これからまたちょっと暑くなるのかなという懸念もお持ちなのか、昨年を踏まえて今年のさくらんぼへの期待感や意気込みを教えてください。

知事

はい。山形県にさくらんぼの苗木が導入されてから150年目ということで、本当に記念すべき年だと思っています。この150周年を盛り上げるためにですね、豊作になってほしいなと、ずっと願ってきましたし、期待もしてきました。生産者の皆さんも同じだと思っています。

ですが、本当に冬の大雪でね、枝折れ・幹折れというものも実際に現場で目にしましたし、本当に大変だなー、厳しいなーという思いは持っておりましたけれども、ただ本当に皆さん春先のですね、一所懸命、人工授粉でありましたし、多く花がついたものは摘花とか、さまざまな努力を積み重ねてきてくださっておりますので、質問がさくらんぼに特化されているかと思いますが、答えが他のフルーツも混ぜて答えておりますけれども、さくらんぼに関しては現時点で佐藤錦が主力というか、一番割合が多いので、ちょっとそれが少なめになりそうだということで、本当に残念な気もしております。私以上に生産者の皆さんが落胆されているのではないかなと思っておりますので、ぜひ、1粒でも多く市場に提供していただきたいと思ひますし、また、次に向けてもですね、生産意欲というものをもち続けていただきたいというふうに思っているところです。

これから、本当にさくらんぼのシーズンになりますので、山形県はさくらんぼの時が一番輝いていると言われます。全国からお客さんも、本当に昔からさくらんぼの季節になると、宿泊が大変多くなるという県であります。経済も回る。さくらんぼが、旅行であったり会議であったり、さまざまな効果に繋がりますのでね、さくらんぼは経済効果が大きいんですよ、うちの県の場合。ですから6月は、とにかくさくらんぼで盛り上げてほしいなと思ひますし、県としても盛り上げていきたいというふうに思っています。

記者

河北新報の八木と申します。よろしくお願いします。

前回の会見でも質問であったかと思うのですが、この夏の参議院議員選挙の件の質問なのですが、前回の質問への知事の答えといったところで、候補者が4人出ているけれども、そこにどう支援とか対応をするのかは現時点では考えているというふうに前回おっしゃっていたかなというふうに把握しているのですが、そこから日数が経ちましたけれども、現時点でも同じようなスタンスというか、今のところは考えていらっしゃるというようなことですかね。

知事

はい。前回と全く変わっておりません。まず目の前のことに集中ということで、今は公務に邁進しているところでございます。

記者

前回と特に変化はないというか。

知事

ないですね。

記者

NHKの岡野です。何度もすいません。

さくらんぼのことであらためて伺いたいのですが、先ほどちょっとお聞きした、さくらんぼの花とか実にカビの一種が付く「おうとう灰星病」というのが、今年は例年よりも大幅に増えているということは、実が腐ってしまうということで、皆さん農家の方も懸念されているかと思うのですが、後ほど担当者の方からお聞きされるとして、主力品種のさくらんぼに、そういった病気が今年増えているということのご所感をあらためて伺っても良いでしょうか。

知事

そうですね。「おうとう灰星病」。どうしてそんな病気が久しぶりに発生しているのかなというので。

記者

ちなみに、雨が降った日が多くて湿度が高かったということが原因だというふうに。

知事

確かに晴れの日がちょっと少ないなというふうに、春以来思っておりましたけれども、県

民の皆さんがですね、朝晩結構涼しいというか肌寒いので、風邪をひかないでほしいなというふうに思っておりましたけれども、まさかさくらんぼにそういう病気が発生しているとはというふうに、ちょっと驚いています。この病気に対する対応策があるのかどうかですね、そういったことを担当にお聞きをしながら、できる限りのサポートをしていければというふうに思っています。

記者

ちなみにですね、県の病虫害防除所は、朝、農園をよく見回って病気の有無を確認したりとか、感染していなくても薬剤散布を怠らないことなどを呼びかけているのですけれども、当然県としても知事としても、何と言うんですかね、くまなくチェックするというか。

知事

そうですね。せっかく、1年に1回しか実りませんので、せっかく実った実がですね、健全に育ってほしいなというふうに思いますので、やはり丹念に見回って大切に育てていただきたいというふうに思っています。

記者

ありがとうございます。最後にごめんなさい。去年が8,700tでかなり少なかったと思うのですが、そういう病気も収穫量に大きく左右してくると思うのですが、そのあたり、知事はどのように思われますか。

知事

そうですね。着果量そのものがですね、主力の佐藤錦が少ないと聞いておりますので、それに追い打ちをかけるように、おうとう灰星病が出ているとすれば、本当に何とも言葉にならないのですけれども、やはり天候との勝負と言いますかね、そういった厳しいものがあるなというふうに思います。ですが、やはり、せっかく実ったものをですね、大切に、病気のものには仕方がないとして、1粒でも多く大事に育てていただきたいと思いますので、県としてもできる限りのサポートをしていきたいというふうに思います。

記者

時間が押してきている中で申し訳ございません。テレビユー山形の倉内と申します。よろしくお願ひします。話題が米の話題について戻ってしまって恐縮なのですが、2点ほどお伺ひしたいことがございます。

やはり、一連のこの、いわゆる令和の米騒動を県のトップとしてどのように見てこられたのかというところと、あと、今、備蓄米も放出されて米の価格がある程度抑えられるという、良い兆しになってきている中ではあると思うのですが、やはり今の今まで県として具

体的な対策、国に訴えるですとか、そういった具体的な対策を知事の中では、どこまで対策したいという考え方があったのかというところを合わせて、この2点お伺いしたいです。

知事

まず1点目ですけれども、受け止めだと思いますけれども、そうですね、「お米が足りない」という人と、「お米はあるはずだ、どこかで目詰まりがあるんだ」というふうにおっしゃっている農水省の方がいたり、「いや、本当に足りないんだ」というJA関係者の声があったり、本当にちょっと二極化していたので、どっちが本当なんだろうというふうに思っていました。今でもちょっとそれは、まだ解明になってないのかなというふうに思っています。何回か備蓄米を放出してもですね、まだそれが店頭に届いていないものもたくさんありますけれども、価格は高騰する一方だったので、米の専門家と言われる方にお聞きすると、「いや、本当に元々足りなかったんだ」ということもお聞きしましたので、やはり、主食である米の大切さということが今回の米騒動で私は、よく身にしみて、私をはじめ国民の皆さんが分かった、政府の関係者の皆さんも分かったんじゃないかなと思っています。ここからがやはり仕切り直しと言いますかね、どのくらい必要な量があって、そしてどのくらい生産されているのかとか、あらためてきめ細やかにですね、そういったことをしっかりとこれから、把握できるようなシステムと言いますか、そういったことを社会全体で考えていくべきではないかと。

あわせてそこに米の価格というのが出てくるわけでありますのでね、消費者の皆さんというか、国民の皆さんがですね、お米を食べ続けていけるような価格というのが大事だと思いますし、そして、生産者が生産できなければお米はなくなっちゃうわけでありますので、しっかりと再生産していけるそういう適正価格というものをですね、両方の視点をもって、そこにはやはり行政もしっかりと調査をし、いろんな状況を把握して、価格というものを考えていくべきではないかなと。「自由にどうぞ」ではない。この主食に関してはね、私はそういうふうに思います。ですから、今「米騒動」とおっしゃいましたけれども、目の前の「お米が足りない」、「高すぎる」というのを、しっかり目の前の対応をしていくということ、そして次のステップには生産者が不安にならないような適正価格の設定に向けて、さまざまな施策を打ち出していくべきではないかなというふうに思っているところです。

本当にそうでなくても農業をリタイアする人、県内いろいろ回ってみてですね、お米を作らなくなっている田んぼを見かけます。だから生産量はどんどん減っているんだと思います。人口も減っていますけれども、お米を作る人も減っています。だから、本当に喜んでお米が作れるような、生産できるようなそういう環境づくりも大事ではないかというふうに思っています。